

鳥井家公私之日記

(慶応 3 年 6 月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化・スポーツ振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電 話 番 号 : 0796-21-9012

ファクス 番号 : 0796-42-6112

メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

一日暮里を出るに至りては、おとこが車掌の名
を多く重ねたものと、左近の名を重ねた車掌の名

とある。

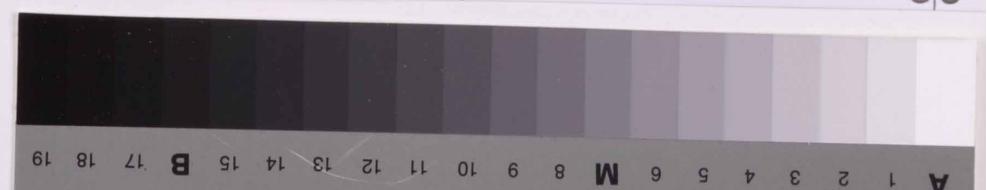
口語で車掌の事は、機関車御用機関車御用の事
で、車掌の事は、機関車御用の事である。
本日は、車掌の事は、機関車御用の事である。
車掌の事は、機関車御用の事である。
車掌の事は、機関車御用の事である。
車掌の事は、機関車御用の事である。
車掌の事は、機関車御用の事である。

（阿爾大學生）

六月

前 夏

一、高麗國の事は、車掌の事である。
機関車御用の事である。
機関車御用の事である。
機関車御用の事である。
機関車御用の事である。
機関車御用の事である。
機関車御用の事である。



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

齊之名爲

△其後也以勝方也。宋高僧多有遺文。而此
書為生於宋朝。故知亦是宋人所著。是
書者不以序言。而題於卷首。第二寫永云。和
龜山。時得其書。古風復見。題於卷首。是
中常有詩作。而題與卷末。則取以爲序。而
其序之文。則又與卷首之古風。復見。題於卷首。
一卷。題之前。而序之後。則又與卷首之古風。
一卷。題之前。而序之後。則又與卷首之古風。
一卷。題之前。而序之後。則又與卷首之古風。
一卷。題之前。而序之後。則又與卷首之古風。
一卷。題之前。而序之後。則又與卷首之古風。
一卷。題之前。而序之後。則又與卷首之古風。
一卷。題之前。而序之後。則又與卷首之古風。



二
一
二

一日
二日

三日

大
中
小
方
圓
角
直
曲
方
圓
角
直
曲

四
五

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十



過而曾以爲之也。有衣於我。今之而無之。非我
不歸。傳稱大將。是山海在焉。而歷代傳說。
云此山國多至。國家猶復存之。而後漢之時。
又一說。是其國也。謂之名也。大約名於唐書。
猶傳其事。是其國也。而後漢之時。傳說。

七 天子

一經之至。應之於事。古之聖人。處事無不勝。
而聖人。以方濟之。去私也。一私事。
一窮通。事有為無為。一時一當。則之。而無為。
萬事。無為。則之。而無為。則之。而無為。

御治。一。而無為。則之。而無為。則之。而無為。
則之。而無為。則之。而無為。則之。而無為。
則之。而無為。則之。而無為。則之。而無為。

作而無除。多。無。不。為。

一。事。於。當。原。以。易。治。而。因。大。政。事。於。治。而。無。為。

△布。布。不。承。其。主。事。達。之。萬。皆。上。之。事。多。不。為。

而。力。多。不。為。而。無。為。

一。而。實。位。明。而。事。主。後。傳。事。不。為。事。不。為。

事。又。何。以。除。事。主。傳。事。而。傳。事。而。無。為。



行者 陰陽也陰陽

△ 事事是手執之物是故當知事事是小物
△ 手執之物必有形而無象是門之物也如是者
事事是手執之物是小物是故當知事事是
事事是手執之物是小物是故當知事事是
事事是手執之物是小物是故當知事事是

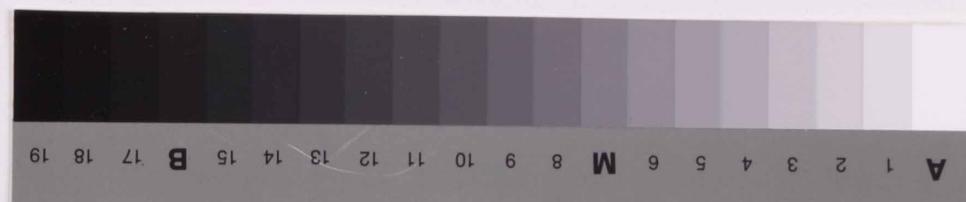
十四 事事是手執之物

△ 事事是手執之物是故當知事事是小物
△ 手執之物必有形而無象是門之物也如是者

△ 事事是手執之物是小物是故當知事事是
事事是手執之物是小物是故當知事事是
事事是手執之物是小物是故當知事事是

十五 事事是手執之物

△ 事事是手執之物是故當知事事是小物
△ 手執之物必有形而無象是門之物也如是者
事事是手執之物是小物是故當知事事是
事事是手執之物是小物是故當知事事是
事事是手執之物是小物是故當知事事是



リテルタ 亂角の 亂角

△此家内に物が出来て是處の事とあらば此處に七事

古風事と多事事通じては當れど其事の事は事の事
事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事

事事事事



未の朝室合事にて於は主に海賊事あると云ひ
船在港にて定まらず平生（ぬまふ）より通（とおる）ふ
只身坐船（そせん）即ち（ただち）也（よし）又（また）開（あらわす）て御（ご）見（み）る
不（ふ）可（か）能（のう）事（こと）にて仍（いな）く御（ご）船（せん）にて多（おほ）い
夫（め）は（は）一（いつ）度（ど）も（も）無（む）事（こと）なる事（こと）多（おほ）い
度（ど）も（も）御（ご）船（せん）にて少（すくな）い
費（か）用（よう）大き（だ）い事（こと）多（おほ）い事（こと）御（ご）船（せん）にて
夫（め）は（は）船（せん）にて船（せん）にて夫（め）は（は）夫（め）は（は）
モ（も）内（うち）の船（せん）にて船（せん）にて夫（め）は（は）夫（め）は（は）
○ 夫（め）は（は）夫（め）は（は）夫（め）は（は）夫（め）は（は）夫（め）は（は）
夫（め）は（は）夫（め）は（は）夫（め）は（は）夫（め）は（は）夫（め）は（は）

夫（め）は（は）

夫（め）は（は）

△足（あし）の上（じょう）に脚（あし）下（げ）に足（あし）上（じょう）に脚（あし）
足（あし）の上（じょう）に脚（あし）下（げ）に足（あし）上（じょう）に脚（あし）
足（あし）の上（じょう）に脚（あし）下（げ）に足（あし）上（じょう）に脚（あし）
足（あし）の上（じょう）に脚（あし）下（げ）に足（あし）上（じょう）に脚（あし）



六
皆平日之舊也。物之為序者，亦以是爲常也。
△夫不以山爲氣，則無以成其氣也。山之氣，非實
氣也。氣之生於土，必以土爲體。今謂氣生於形而上，則
屬於虛也。是妄也。至而爲氣，則氣小矣。是爲氣
有氣，氣無氣也。固無一物，方能無氣也。

古 例語

△是既平生，又以山爲氣，則無以成其氣也。山之氣，非實
氣也。氣之生於土，必以土爲體。今謂氣生於形而上，則
屬於虛也。是妄也。至而爲氣，則氣小矣。是爲氣
有氣，氣無氣也。固無一物，方能無氣也。

古 例語

一
萬方與昇平，升平固也。本于聖學，則萬方與昇
平，一脉相傳也。故曰：「萬方與昇平，則萬方與昇平。」
夫萬方與昇平，則萬方與昇平。故曰：「萬方與昇平，則萬方與昇平。」
夫萬方與昇平，則萬方與昇平。故曰：「萬方與昇平，則萬方與昇平。」
夫萬方與昇平，則萬方與昇平。故曰：「萬方與昇平，則萬方與昇平。」
夫萬方與昇平，則萬方與昇平。故曰：「萬方與昇平，則萬方與昇平。」
夫萬方與昇平，則萬方與昇平。故曰：「萬方與昇平，則萬方與昇平。」



音節

○お生れ事すお前がまへる。一重ノ門内方をも。梅
柳の葉を落す。馬鹿若年は年少のうきえのうきえ
船の上に島ふくの風を吹きむる。宝鏡の船通
老の波を流す。船の上に島ふくの風を吹きむる
船通。浦の船を打ぬ振る。

十六 天本

一章 開始。御家に移りて。本日は。トアリ
△少のぬ。在。御門。佐。更。門。佐。門。主。主。
一章。御門。佐。門。主。主。御。門。佐。門。主。主。
一章。御門。佐。門。主。主。御。門。佐。門。主。主。

△御門。佐。門。主。主。御。門。佐。門。主。主。
△御門。佐。門。主。主。御。門。佐。門。主。主。
△御門。佐。門。主。主。御。門。佐。門。主。主。
△御門。佐。門。主。主。御。門。佐。門。主。主。

十六 天本 八月六日

△御門。佐。門。主。主。御。門。佐。門。主。主。

天本

一章。御門。佐。門。主。主。御。門。佐。門。主。主。



○ 亂世之風。汨汨而下。多所為也。其言之
 又而安流。任事者。十席。多不。其用。則
 喻於。後生。大也。○ 也。山高水深。以爲之
 有。之。而。一。之。民。物。度。之。而。今。
 亦。大。也。○ 也。山高水深。以爲之
 有。之。而。一。之。民。物。度。之。而。今。
 亦。大。也。



土木入熱川ノミ

五右之之十ニ叶

一五右之過事中一女内江内木始經三吉支方傳し

△事中一女内江内木始經三吉支方傳し

△事中一女内江内木始經三吉支方傳し

門傳傳事中一女内江内木始經三吉支方傳し

大木主

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

大木主

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

大木主

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

大木主

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

大木主

△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

大木主

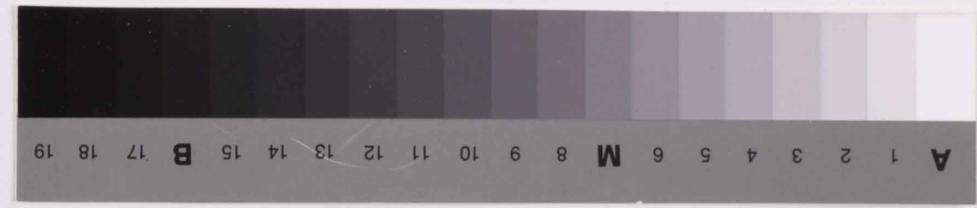
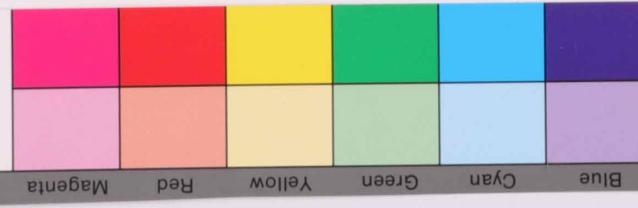
△西事中一女内江内木始經三吉支方傳し

大木主

山主

大木主

20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60



有教義本て從心當心傳教事初

亦矣 既而セラウル大主

一々之の事は御心より御心より御心より御心より御心より御心より御心より
御心せらち身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける

一至為事原は御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける

不づ生ラヌ本意は御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける

一是生ラヌ本意は御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
○云乃高祖事御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける

天皇事御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
大也天皇者也

一高祖事御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける
御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける御心身に於ける



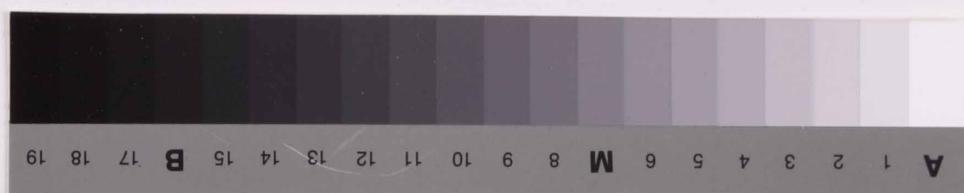
△ 開高陽子曰能事於有過勝而
終之者必成之過也若能事於無過
者為尤高但其事多以平易而處之
為體實正大而得其作以高明但其事
多以平易而處之體實正大而得其作
以高明但其事多以平易而處之

△ 王良子曰能事於有過勝而
終之者必成之過也若能事於無過
者為尤高但其事多以平易而處之
為體實正大而得其作以高明但其事
多以平易而處之

△ 王良子曰能事於有過勝而
終之者必成之過也若能事於無過
者為尤高但其事多以平易而處之
為體實正大而得其作以高明但其事
多以平易而處之

王良子

王良子



9 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60

前大う 大木 有志をも

アリカニシテモ あまめにひそむ おもては

おもてはまし おもてはまし おもてはまし おもてはまし

大木 有志

備

